

キリスト教主義の会津北嶺高校

学校礼拝を1947年

(昭和22年)から78年間、毎週月曜日1校時に50分間の礼拝を行っている会津北嶺高校。内容は、教会の日曜礼拝とほとんど同じとの事。尚、教育目標は「生きること、愛すること、学ぶこと、そして貢献すること」

「石山学園の創立者・石山休三先生が1945年急没、学校教育制度激変により当時の道徳教育修身が出来なくなり、徳育教育として新島襄が起した会衆派の若松教会から毎週牧師の先生の講話を聞く時間を設けていましたが、大学希望者

が増加してきたため2012年から授業に「宗教」の時間を入れ、2015年度からキリスト教学校教育同盟加盟しました。しかし、会津北嶺高校の生徒は求道者(教会で洗礼は受けないで聖書を学ぶ人)ではありませんので、主の祈りを暗唱させたりしません、望むならば教会に行くように勧めています。賛美歌も一般の誰でも聴いた曲が多く、英語の賛美歌を歌うことが英語の学習に繋がっているようにしています。現

在は、様々な教会からの牧師の先生を招いています」と話す石山裕司校長。また、「猪苗代教会の新田牧師先生の説教は、野球部生徒さん全員で北陸に野球練習試合をしながら浜辺のゴミ片付けをしたことなど、多岐にわたってお話していただきました」とも。

学校法人同志社創立記念150周年講演が、9月21日に会津若松文化センターで前同志社女子大学学長小崎眞氏から「目に見えない賜物に誘われて」新島八重と井深八重から引き継ぐもの」の講演があり、日曜日であったが、全校生徒で参加。

